

令和7年度第1回仙台市科学館協議会会議録

日 時 令和7年5月9日（金） 13：30～14：30

場 所 仙台市科学館2階会議室

出席委員 加藤けんいち委員，河野裕彦委員，佐藤美嶺委員，庄司裕委員，
長島康雄委員，中田晋委員，松田佳歩委員（計7名）

欠席委員 磯部裕子委員，有働恵子委員，高田淑子委員（計3名）

事務局 加藤館長，加藤副館長兼事業係長，高橋主幹兼庶務係長，羽澤主任，
宮崎主任指導主事，門脇指導主事

傍聴人 無し

議事要旨

1 開会

2 職員紹介

3 館長挨拶

4 会長挨拶

- 長島会長が議長となり会議を進行
- 議長より議事録署名人に河野委員を指名

5 報告事項

（1）令和7年度仙台市科学館事業計画について

- 宮崎主任指導主事から資料1により説明

（質問等）

○加藤委員

今回2年かけて全館展示リニューアルを行ったが、リニューアルを機にこれぐらいの来館者を誘致する、呼び込むなど、市民利用施設という視点から来館人数について数値での目標はどう考えているか。

○加藤副館長

昨年度までは年間来館者数18万人以上を目標にしていたが、この目標は昨年で達成している。この結果を踏まえ、今年度以降の目標をどのように設定するか現在検討中である。

○加藤委員

中学2年生は科学館学習で必ず来館したり、小学生向けワークショップやどこでもパスポートなどやっているが、子どもだけではなく大人から見ても有意義な施設だと思う。

せっかくの数十年ぶりの全面リニューアルであるので、この機に小中学生だけではなく保護者を含めて大人の方にも足を運んでもらえるような、例年と違った講座

や取り組みも必要かと思う。

○長島会長

加藤委員の意見に関連して、数値に限らない科学館独自の評価指標を提案してはどうか。

数値目標だけだと、数値が上がりそうな展示テーマに偏る危険性があり、科学館の役割としてバランスがよくない。

しかしその数値目標に代わる指標を博物館に関係する人たちが出せていない現状がある。単純な参加人数だけではなく、例えばこういった事業を行うと加点〇点だとか独自の基準を設けて、何年か評価してみてもその評価基準が妥当なら博物館協会などの雑誌に発表するのはどうか。そういった基準を示すのも科学館の重要な役割かと思う。

リニューアル直後は入館者数が激増してその後減少傾向になると予想される。その間科学館はなんの努力もしていないわけでは当然ないのだが、数値目標だけだとそれが示しにくい。常に努力していることを示せる独自の指標があれば、仙台市科学館の取り組みや努力がまっとうに評価されるのではないか。

「科学館評価指数」みたいなものが昨年度から下がった、では来年度はもっと専門的な分野を増やそうとか、その評価に大学教員や科学館協議会委員を巻き込むのもいいと思う。

○加藤副館長

科学館の役割として科学教育の提供があるが、展示物そのものと職員による企画、その中に統計的な分野も絡めて教育現場の人たちも巻き込んでやっていけると面白いと思う。

○長島会長

教育評価の方々も巻き込むと良い結果が得られると思う。

○中田委員

企画展の回数が増えたとのことだが、私が指導主事をやっていた頃は予算的に厳しかった覚えがある。現在の予算はどうか。

○宮崎主任指導主事

予算的に厳しいのはあまり変わらない。連携協等のネットワークで借りられるものを探したり、科学館の収蔵品を展示してやりくりしたりしている。

○中田委員

収蔵物の出し方を変えて展示するといったアイデア部分だけではなく、やはりもっと予算をかけて企画を行えるともっと盛り上がるころはあると思う。ぜひ検討していただきたい。

○加藤副館長

今年はリニューアル記念イベントという形で予算がもらえているので、楽しみに

していてほしい。

○長島会長

予算に関しては財政課とのやりとりで様々な根拠資料が必要になってくる。企画展で市民も巻き込んでこういう効果が出ているといった実績を示せると交渉しやすくなるだろう。

○加藤館長

今年はリニューアルということで多めに予算を付けてもらえているが、科学館の取り組みや入館者数増加の推移といった結果を見せられれば、次年度以降も予算を付けてもらえるかもしれない。財政課もどんどん予算要求して新しいことにチャレンジしてくださいといったことを言っている。

(2) 夏休み特別展について

○門脇指導主事から、令和7年度特別展開催要領について資料2により説明。

(質問等)

○佐藤委員

1つ目に、最後にメッセージ性を込めたコーナーを作るというのが良いと思った。海について地球温暖化や海洋プラスチックの問題など「これから自分たちの生活の中で気を付けることで海を守っていけるんだ」という部分を絡めて考えていけるので、ぜひ作っていただきたい。

2つ目に、エントランスについて。昨年の特別展の際に来館して思ったのだが、エントランスの恐竜牧場という展示で、上の子が遊んでいる間保護者の方が下の子を連れて待っているだけになってしまう状況が気になった。たとえばあのコーナーの横に海に関する絵本とベンチを置いて一緒に読めるなど、上の子も下の子も両方楽しめる工夫があると良いと思った。

今年はエントランスで砂場の展示をするとのことだが、本物の砂を置くのか。

○門脇指導主事

専用の砂を置いて、砂に地形の映像をプロジェクターで投影する。砂を掘っていくと海が、盛ると山が投影されるようなイメージ。

○庄子委員

海のいきものをテーマにした特別展だが、展示リニューアルもしたので、常設展に誘うような表示をお願いしたい。海のいきもの関連だとたとえば歯の展示などは4階展示室にもある。

小中学生などは動きのあるものを楽しむので、常設展にも楽しめる展示はあるので誘導できればと思う。

イベントに「沖縄の海砂でストラップを作ろう」というものがあるが、これは星の砂を使うのか。

○門脇指導主事

星の砂もだが、海底の砂をそのまま持ってきたものから微小貝を探したりもする。

○庄子委員

ぜひ宣伝していただきたい。夏休みに子どもたちが来館するようこちらでも宣伝する。

○加藤委員

周知はどのように行うのか。

○加藤副館長

基本的に昨年と同じく、チラシや地下鉄でのステッカーを予定している。

○加藤委員

教育局で保護者への連絡にまなびポケットを使っているが、そういったデジタル媒体も活用できないか。チラシだけだと子どもから保護者に渡らないこともあるので、紙もデジタルも広報に使えると良い。

○宮崎主任指導主事

特に夏休み前は配布物が非常に多く大切なお知らせを見落としてしまう場合があるので、アプリでの周知は遠慮してほしいと教育局から言われている。

例年取っているアンケートによると、何を見て来館したかについてはチラシが一番多かった。チラシだと保護者の手元で親子一緒に見られるので、やはりチラシの効果の大きさというものを実感している。

そのほか4月から当館でもSNSのX（旧twitter）を利用しているので、ホームページと併せて告知する。あとはマスコミへの情報提供を通してさまざまな広報活動をしていきたい。

○庄子委員

学校の現状から言うと、まなびポケットを使ってチラシの配布を行うことはあるが、基本的に保護者しか見ないので子どもが行きたいと言い出すという風にはなりにくい。やはりチラシがあると良い。

○加藤副館長

チラシの訴求力はデザインが一番大事だと思うので、「すごい特別展なんだ」と見て分かるような、そういう想いが伝わるようなデザインを出していきたい。

○佐藤委員

アプリの話題に関連して、まなびポケットには載せられなくても、仙台市では子育てアプリというものを出している。その通知をみて子どもを連れて行こうか考える保護者もいる。小学生がいる家庭では子どもが小さい頃に登録してそのままというケースも多いので、そちらの活用を検討するのはどうか。

○加藤副館長

検討する。

○河野委員

海全般についてテーマが網羅されていて大変興味深い。東北の海について少し展示があるようだが、たとえば三陸沖の海水温が世界的に見てもかなり上昇しているとか、実際それでワカメが採れなくて水産業がダメージを受けているとか、海水温上昇の原因についての学術的な話や生態系にどのように影響しているのか、そういったものを講演などでちょっと触れるなどしてほしい。そうすると自分の問題として考えられるのでは。

○門脇指導主事

東北大学やJAMSTECで展示していいような資料があればパネルなどで紹介したい。

○河野委員

震災が終わった後は10年くらい経てば海はだいたい元に戻るという学説もあったが、いろんな要素が絡んでいてそこまで単純な話ではないとここ最近の変化をみて感じているところである。検討いただきたい。

○長島委員

360度シアターはかなりの混雑が予想される。人数制限や人員配置をうまくやらないと誘導がうまくいかず、クレームの原因になるのではと心配だ。運用対策を何個か考えていた方がよいのでは。

せっかく良い展示をしているのに、十分に見学できなくて不満が残ったりそれで苦情が来るのではもったいない。

ほかには渋滞対策。近隣住民の迷惑になりすぎないように工夫や周知は必要だ。

○松田委員

展示の順番について、どういう方向性なのか気になった。海のことを話題にするときに、深さ順にするとか陸からの距離にするとか、暖かいところ寒いところなのか。その部分が伝わりやすいと学びやすいし意識も深まると思う。

○門脇指導主事

入口から4章までの前半部分は浅いところから深海へ、だんだん深くなるよう並べている。蛍光生物についても深さ200メートルより深いところが研究されているので、深海の一部として取り扱っている。後半に大きめの標本、サメなどの展示やシアターなどあるのでスペースを広く取り、ほ乳類関係の展示をして外に出ていくというイメージで構成している。

○加藤副館長

今回はサメの展示が1つの見どころである。

サメは浅いところ深いところ、あらゆる場所に生息しており、アメリカではサメだけの展示会、それだけで全米で公開して回れるほど注目度が高いと聞く。今回の仙台市の場合はサメの展示会も見られるし海の展示も見られるというところをポイントにしたい。

○長島委員

協議会委員向けの内覧会などあるだろうか。保守点検休館日など委員で集まって何か意見やアイデアなど提供できれば良いと思う。ぜひ検討いただきたい。

(3) 仙台市科学館展示リニューアル後の入館者数について

○高橋主幹兼庶務係長から資料3により説明

(4) その他

○キャッシュレス決済導入について、高橋主幹兼庶務係長から口頭で説明

6 事務連絡

次の開催日程については、今回と同様にメールで日程調整させていただく。

7 閉会

令和 7 年 11 月 14 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

長島 康雄

仙台市科学館協議会 委員

河野 裕彦